



【先週 6月26日～7月2日の外食の出来事】

■ハイデ日高の営業赤字縮小 3～5月、まん防解除で復調

2022年3～5月期は単独営業損益がゼロ近辺と、前年同期(12億円の赤字)から赤字幅が縮小したことが分かった。新型コロナウイルス禍が長引き、深夜営業などで影響は依然として残っている。

■銚子丸の2023年5月期、税引き利益76.4%減

2022年5月期の単独決算で、税引き利益は前期比2.8倍の10億5700万円。2023年5月期の税引き利益は前期比76.4%減の2億4900万円を見込む。2023年5月期の経常利益は同77.2%減の3億8300万円となる見通し。

■外食売上高、5月20%増 GW、家族客中心に回復

日本フードサービス協会(東京・港)が27日に発表した5月の外食売上高(全店ベース)は前年同月に比べ20.4%増えた。ゴールデンウィーク(GW)中に行動制限がなかったことで家族客を中心に客数が回復した。

■壺番屋3～5月、純利益65%減 値上げで増益予想は維持

2022年3～5月期の連結決算は、純利益が前年同期比65%減の4億3400万円だった。売上高は2%増の112億円だったが、油や弁当容器が高騰し増収減益となった。3～5月期の営業利益は23%減の5億2800万円だった。

■バルニバービ、第3四半期(2021年8月～2022年4月)の連結業績

2022年7月期 第3四半期の連結業績は売上高70億600万円(対前年同期比12.2%増)、営業損失5億6200万円(-)、経常利益8億600万円(-)、四半期純利益5億1800万円(同24.4%減)であった。

■精養軒、第1四半期(令和4年2月～4月)の業績

令和5年1月期 第1四半期(令和4年2月～4月)の業績を発表。売上高3億6800万円(対前年同期比94.6%増)、営業損失1億5600万円(-)、経常損失1億3700万円(-)、四半期純損失1億3700万円(-)であった。

■梅の花、2022年4月期(2021年5月～2022年4月)の連結業績

2022年4月期 通期の連結業績を発表。売上高225億9100万円(対前年同期比4.6%増)、営業損失16億3000万円(-)、経常損失17億9200万円(-)、親会社株主に帰属する当期純利益2億1700万円(-)であった。

■丸千代山岡家、第1四半期(2022年2月～4月)の業績

2023年1月期 第1四半期(2022年2月～4月)の業績を発表。売上高35億3200万円(対前年同期比-)、営業損失1億5800万円(-)、経常損失1億5000万円(-)、四半期純損失9400万円(-)であった。

■国産焼肉食べ放題「肉匠坂井」、50店舗達成 特急レーンも導入

株式会社焼肉坂井ホールディングス(本社:愛知県名古屋市、代表:阿久津 貴史)が、7月1日に国産牛焼肉食べ放題ブランド「肉匠坂井」の全国50店舗目となる鶴沼店(岐阜県各務原市)をオープンさせる。